

特集 町の公営塾「心志塾」開講

自ら「心」を磨き、「志」を育み、地域を担う人材の育成

皆さんは「公営塾」という言葉を耳にしたことはあるでしょうか。

公営塾とは自治体が主体となり運営する塾のことで、只見町もこの公営塾を教育委員会が主体となり、「地方創生は教育から」の理念のもと、2月1日より「心志塾」という名前で開講しました。今回は、この心志塾が設立された目的や取り組みなどを詳しくご紹介致します。

— 公営塾開講までの背景 —

過疎や少子化が進む只見町では、人口減少問題が課題となっております

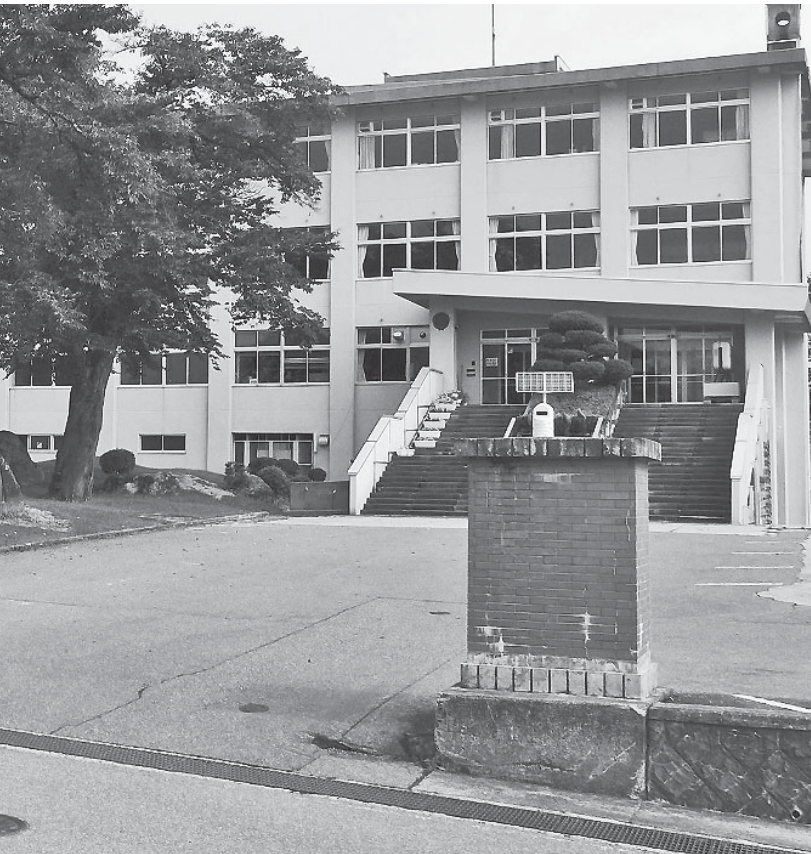
(広報ただみ11月号No.558参照)。全国的に見ても人口減少は大きな社会問題となっており、福島県内においても、多くの県立高校が少子化により定員割れの状況が続き、分校化や廃校など高校の存続が危ぶまれています。

少子化問題は只見高校の存続にも影響しています。只見高校の定員は1学年70名となっておりますが、これに対し平成20年度の入学生は54名、平成25年

度41名、28年度36名と定員割れの状況が続いています(図1参照)。

県立高校においては、入学者が定員の半数以下(只見高校の場合は定員70名に対し半数は35名となる)の状態が3年連続で続くと分校化や生徒募集停止となり廃校となってしまいます。只見高校が分校化や廃校になれば、町に高校が無いことによる町外への進学転出が増加し、町の将来を担う人材の確保に影響すると予想されます。

また、町外の高校への進学しか選択肢がないことにより、家庭への経済負担



▲福島県立只見高等学校



夢起ゼミ担当
(株)プリマペンギノ
末崎 貴士さん

地域おこし協力隊
教科学習・奥会津
学習センター担当
松本 貴芳さん

地域おこし協力隊
教科学習担当
渡辺 啓太さん

地域おこし協力隊
教科学習担当
渡辺 史さん

▲心志塾の講師を務める皆さん



▲心志塾の教科学習で学ぶ只見高校生の皆さん



— 公営塾「心志塾」とは —

只見町内には高校生を対象にした学習塾がありません。そこで教育委員会では、只見高校生を対象にした塾をつくることでデメリットを補い、逆に只見高校に入学しなければ受けられないメリットとして魅力化を図りました。

塾の名前は「心志塾」として、昨年9月20日より地域の課題をテ

マに学ぶ課題解決型学習「夢起ゼミ」が始まりました。そして、今年2月1日からは、学力向上を支援する「教科学習」が新たに追加され、この2本柱の学習で生徒の学習意欲を導きます。

3月31日まで在校生は無料体験期間となっており、4月1日より有料(月額3千円)となります。

心志塾の学習や雰囲気を理解する良い機会になりますので、無料体験期間中にぜひご利用下さい。

— 塾講師を地域おこし

協力隊が担う —

塾の講師は予備校講師の経験や大学で専門科目を専攻した3名の協力隊の皆さんが担当し、生徒達を全面的にバックアップします。

— 2本柱の学習 その1

「教科学習」とは —

教科学習は、平日の午後4時から午後8時35分まで行う為、部活動後の生徒にも対応しています。

生徒の目標に合わせた個別学習計画を講師と共に立て、高校の先生

特集 町の公営塾

▼(図1)過去10年間の只見高校入学生の推移

(人)

年度 種別	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
留学生	4	5	9	10	7	7	15	15	16	14
町内生	44	49	38	34	37	27	26	26	24	22
計	48	54	47	44	44	34	41	41	40	36

▼(図2)統合した只見中学校過去10年間の生徒推移

(人)

年度 学年	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
1年	46	46	34	38	40	37	41	40	32	30
2年	39	46	46	34	39	39	36	40	40	31
3年	55	39	46	45	36	38	38	36	40	40
計	140	131	126	117	115	114	115	116	112	101



が増大し、高校進学率の低下が懸念されます。

―只見中1年生は三〇名―

一方、町の中学校を見ると、少子化の影響により平成19年度には、3地区の中学校(只見中、朝日中、明和中)が統合し、新生「只見中学校」として旧朝日中学校に設置されました。統合当時の全校生徒は140名ですが、それから10年後の現在(平成28年度)では全校生徒101名で1年生30名、2年生31名、3年生40名となっており、この10年間で約40名が減少していることとなります(図2参照)。このことにより、只見高校の定員1学年70名の基準と、現在の只見中学校1年生の生徒数30名を比較すると、仮に1年生全員が只見高校へ進学したとしても定員の半数割れとなり、町外からの進学者5名が必要となります。

―奥会津学習センターを増設―

こうした事態を懸念して町では、平成14年度から「山村教育留学制度」を開始し、全国から只見高校へ進学する留学生を受け入れてきました。現在では只見高校入学生の約4割が留学生

となっており、只見高校存続の重要な役割を担っています。留学生の受け入れには安心して学校生活がおくれる生活拠点として、大きな受入容量が必要であり現在、平成29年4月開始に向けて留学生の寮「奥会津学習センター」の増設工事が進められています。これにより留学生の受入人数が40名から60名となり只見高校存続の為に最低限必要な生徒数のうち、半数の受け入れが可能となります。

―公営塾で地域人材育成―

しかし、只見高校の存続の為には留学生だけに頼るわけにはいきません。只見高校入学生の殆どを占める町内の中学生が、只見高校へ入学したいと思っても、必要な魅力がありません。そこで町では、只見高校の魅力を高めて町内外からの入学者増につなげ、将来の地域を担う人材を育成するために只見高校生を対象にした「公営塾」の運営に乗り出すことを決定しました。

この公営塾は、3年前から先進地の視察や有識者の指導により準備を行い、山村教育留学制度と共に教育振興対策の一つとして進めてきました。

— 心志塾の概要 —

◆利用料金

月額3,000円

※平成29年3月31日までは無料体験期間
(在校生)

◆場所

只見振興センター(旧只見中学校)2階
スタディルーム

◆対象

只見高校生

◆時間

①教科学習

- ・平日、午後4時～午後8時35分まで
(冬期時間)
- ・部活動帰りでも好きな時間から参加が可能です
- ・夢起ゼミ開催日はお休みとなります

②夢起ゼミ

- ・月2回程度、午後7時～午後9時まで
- ・教科学習はお休みとなります



◆学習の内容

心志塾では「教科学習」と「夢起ゼミ」の2本柱で学習を行います。

①教科学習

- ・各自のレベル・目標にあった学習計画を講師と共に作成
- ・計画に沿った自立学習
- ・分からない問題は講師が徹底指導
- ・只見で起業するための基礎力アップ

②夢起ゼミ

- ・夢起ゼミは「自分の考えを答えにする」方法を講義と実践で学ぶ体験型学習
- ・講師は、講演会など全国で活躍し高い満足度を獲得している(株)プリマペンギノの末崎貴士さんが務める
- ・地域の課題解決に果敢に挑戦する地域創生力を育成します
- ・自らの人間性を高め、将来の目標や夢と一緒に考えます

《Voice》

只見高校2年生

目黒 史也さん



親の勧めや、先輩が学校の先生と心志塾の指導により志望校に合格したことなどが刺激になり、今回参加しました。

将来の夢は放射線技師になることで、塾では苦手科目の英語を克服したいです。

ソフトテニスの部活帰りに利用できるのも、部活と勉強の両立ができ安心です！

《Voice》

只見高校3年生

牧原 さくらさん



私は昨年心志塾のゼミで大学AO入試のプレゼンやレポートのポイントを教わりました。試験3ヶ月前から12回の講座を受けコツが分かるようになり、結果志望校の東洋大学国際観光学科に合格しました。後輩の皆さんには、塾に来て後悔はしないと思うのでまずは1回来て欲しいです！

と連携して生徒が自ら学ぶ力を育む学習スタイル「自立学習」で基礎学力の向上を図り、地域で生き抜く基礎力を育成します。

— 2本柱の学習 その2 —

「夢起ゼミ」とは

体験型の夢起ゼミは月に2回開き、ゼミ講師は東京の経営コンサルタントで塾講師も務める末崎貴士さんが担当し、地域の課題などをテーマに学び、社会人として役立つ「考える力・表現する力・行動する力・コミュニケーション能力」を豊かにし、地域創生力を育成します。

— 入講生の募集 —

町教育委員会では、「心志塾」へ参加したい只見高校生を募集しています。只見町は本気で只見高校と生徒をバックアップしますので、無料期間中にご利用下さい。

◆お問合せ先

教育委員会 学校教育係

☎0241(82)5320